昭和医科大学 2024年度 小論文 そっくり類題演習セット【問題・構成メモ編】

解説：Mio先生・ニックニ先生（TMPS医学館）

TMPS小論文道場｜試験時間：60分｜配点：20点｜文字数：600字以内（横書き）

対象：医学部二次試験対策

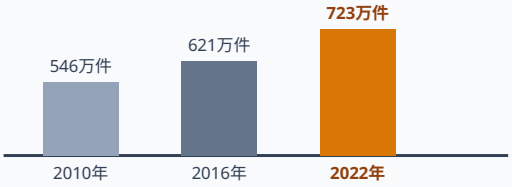
【注意事項】 小論文解答用紙は、**横書き**で、**アルファベットと数字は、2文字を1マス**に記入してください。段落の書き出しは1マス空け、句読点（、。）もそれぞれ1マスを使って記入してください。

そっくり類題（救急医療の逼迫と適正利用・医療人の立場からの解決策）

近年、日本の救急医療現場では、救急車の年間出動件数が過去最多（約723万件）を更新し、現場到着までの所要時間や病院収容までの時間が延伸しています。その背景には、高齢化に伴う救急搬送の増加だけでなく、緊急性の低い軽症者が夜間・休日に救急外来を受診するいわゆる「コンビニ受診」や、救急車の安易な利用が約半数（初診時軽症割合：約48%）を占めている現状があります。一方で、市民が受診を過度に我慢した結果、心筋梗塞や脳卒中など重篤な疾患の手遅れにつながるケースも懸念されています。

【設問】 真に救急医療を必要とする重症患者の命を守り、地域の救急医療体制を持続可能にするためにはどのような方法があるか、医療人の立場からあなたの考えを述べてください。（600字以内）

参考資料：救急自動車による救急出動件数と初診時傷病程度別割合の推移（概念図）





📝10分構成メモ欄（書き始める前に4段落の骨格と予定字数を設計しよう）

第1段落：問題提起・方針（目安：110〜130字）	・現状の課題（救急需要の急増と軽症利用・重症者への影響）： ・自分が提案する解決策の柱：
第2段落：解決策①（市民・相談体制）（目安：150〜180字）	・電話相談（#7119等）によるトリアージ支援と適正利用の啓発（見逃し防止との両立）：
第3段落：解決策②（医療機関の連携）（目安：120〜150字）	・一次・二次・三次救急の役割分担とかかりつけ医・休日夜間急患センターの活用：
第4段落：解決策③・結論（DX・チーム医療）（目安：120〜140字）	・ICTによる情報共有・多職種タスクシフトと医療人としての決意：

昭和医科大学 2024年度 小論文 解答用紙（横書き 20字×30行 ＝ 600字）

氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ｜得点：＿＿＿ / 20点

目標字数：540字（9割）～ 588字 ｜英数字は2文字を1マスに記入すること

100字
200字
300字
400字
500字
540字(9割)
600字